

## 声 Voice

## 原発 避難計画よりも廃炉だ

無職 小野瀬 良武

(茨城県 71)

茨城県の東海第二原発の30キロ圏内に住んでいる。広域避難計画の策定が必要な

地域で、避難を受け入れる県内2市との協定が1月末に締結されたが、不安がある。協定では、受け入れは原則1カ月以内。だが、果たして1カ月で自宅に戻れるのか。さらに、原発事故と巨大地震が重なり、2市の住民も避難が必要になる場合は想定していない。

一方、県が2年前に提示した案では、避難対象96万人のうち52万人は近隣5県に避難させる想定だった。しかし、5県との調整は遅

れている。大勢の避難者を長い間抱えるかもしれないのだから、簡単に受け入れを決められないのは当然だろう。

そもそも避難という考え方が間違っているのだ。避難計画や避難訓練よりも、私は原発そのものの廃炉を求めたい。

だが、願いと裏腹に鹿児島県の川内原発に続いて福井県の高浜原発も再稼働した。運転期間を原則40年に限る原子炉等規制法改正も骨抜きにされようとしている。福島事故は5年経っても収束の見通しが立たない。不都合な真実から、目をそむけてはいないか。